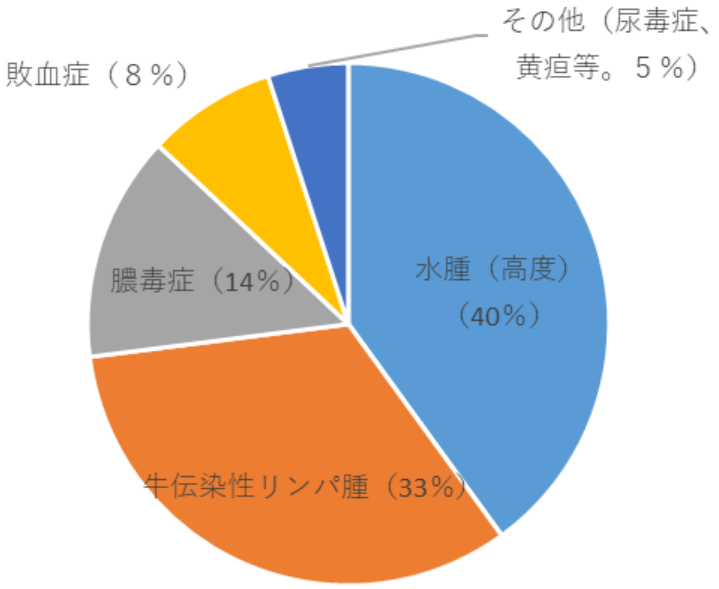
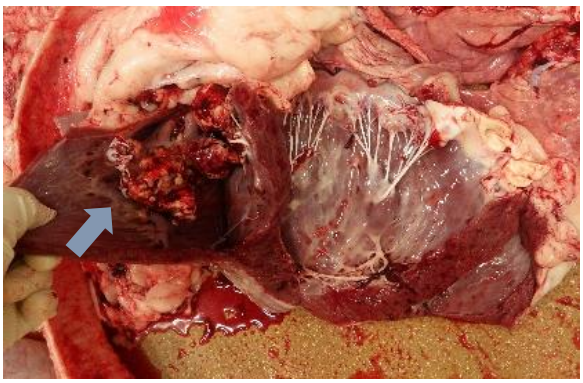
牛の全部廃棄及び一部廃棄について（内訳）

牛のと畜検査における全部廃棄（疾病）の内訳及び説明については、下記のとおりです。
（集計年度：令和３年度から令和５年度まで）



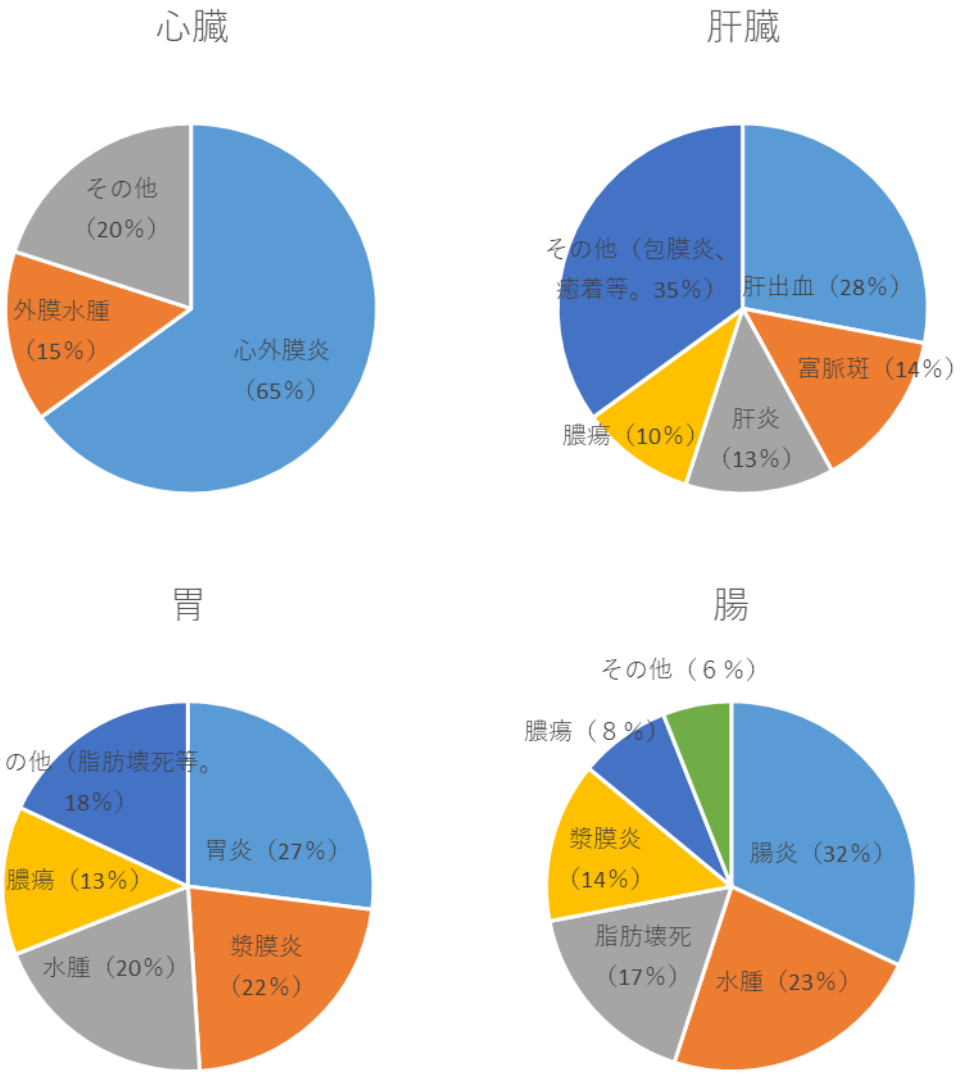
水腫（高度）：全身的に筋間へ余分な体液が溜まったもの。
牛伝染性リンパ腫：牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染等により、全身的にリンパ節や臓器等に腫瘍が作られたもの。詳細については、資料（5.疾病紹介）をご覧ください。
膿毒症：ぶどう球菌等の化膿菌が血液やリンパ液を介して全身へ広がり、複数箇所に化膿巣が作られたもの。
敗血症：細菌等の病原体が体内で増殖し、全身的な炎症反応や臓器障害が起こったもの。

牛伝染性リンパ腫を発症し、
肥厚した牛の子宮



敗血症を発症し、
いぼ状の病変を有する牛の心臓

牛の内臓（心臓、肝臓、胃及び腸）における一部廃棄（疾病）の内訳及び説明については、下記のとおりです。（集計年度：令和３年度から令和５年度まで）



心外膜炎：心臓の表面を覆う膜が炎症を起こしたもの。
肝出血：肝臓に黒赤色の出血斑が見られるもの。

富脈斑（ふみゃくはん）：肝臓の毛細血管が拡張し、肝臓表面に円形や不整形の暗赤色斑や陥没ができたもの。

包膜炎：肝臓の表面を覆っている膜が炎症を起こしたもの。

漿膜（しょうまく）炎：胃や腸の表面を覆っている膜が炎症を起こしたもの。

脂肪壊死：胃や腸を取り巻く脂肪組織の一部が壊死して硬くなったもの。